

審 査 書

2027年国際園芸博覧会に係る環境影響評価準備書（以下「準備書」という。）に関する横浜市環境影響評価条例第31条第1項に規定する環境の保全の見地からの意見は、次のとおりです。

横浜市長 山中 竹春

事業の実施に当たっては、事業内容及び地域特性を考慮し、準備書に記載された事項に加え、次に示す事項に留意してください。

1 事業計画

- (1) 国際的な園芸・造園の振興や花と緑のあふれる暮らし、地域・経済の創造や社会的な課題解決等への貢献を博覧会の目的としていることから、GREEN×EXPO にふさわしいサステナブルな博覧会の実現に向けて、関係者や来場者と一体となって、カーボンニュートラルや生物多様性の保全・向上、資源循環について積極的な姿勢で取り組んでください。
- (2) 輸送計画の深度化に当たっては、公共交通の利用促進策をはじめとして、シャトルバスの運行計画、会場隣接駐車場とパークアンドライド駐車場における予約制の導入や料金設定等の運用、安全な誘導など、円滑な来場者の輸送を実現するための運営について検討し、確実に履行してください。
- (3) 対象事業実施区域においては、旧上瀬谷通信施設地区土地区画整理事業（以下「土地区画整理事業」という。）により保全対象種の生息・生育環境が整備された後に、博覧会が開催され、博覧会開催後は会場区域が公園として利用されます。関連事業である土地区画整理事業や（仮称）旧上瀬谷通信施設公園整備事業（以下「公園整備事業」という。）と連携して、工事や保全対象種の生息・生育環境の維持管理の計画を具体化するとともに、新たに対策が必要となった場合は適切に対応するなど環境の配慮に努めてください。

また、庭園や現況の草地環境を生かした広場など新たな緑環境の整備を行うことから、そこで得られた生態系の影響に関する知見を公園整備事業に引き継いでください。

2 環境影響評価項目

(1) 工事中、開催中及び撤去中

ア 全般

- (ア) AIPH（国際園芸家協会）の規則等に基づき、博覧会の持続可能性の目標等を示すサステナビリティ戦略等を策定し、取組を進めるとしていることから、サステナビリティ戦略等における温室効果ガスの削減や生物多様性、水循環、廃棄物等についての取組内容を環境の保全のための措置として評価書に記載してください。
- (イ) 事業者の見解は重要な情報であることから、審査会で補足説明し、質疑において回答した内容については可能な限り評価書に記載してください。
- (ウ) 予測条件について、対象事業実施区域内は土地区画整理事業の造成工事によって全て改変される可能性があるとしていますが、関連事業で一部保全した樹林地や大径木を博覧会でも保全し、現況の草地環境を生かした広場を整備する計画としています。評価書ではその前提を踏まえた記載としてください。

イ 生物多様性

- (ア) 注目すべき種であるホトケドジョウは、「和泉川源流域」のほか対象事業実施区域外の堀谷戸川の下流でも生息を確認していることから、堀谷戸川流域である対象事業実施区域内の「樹林が点在する広大な草地域」と「堀谷戸川左岸の耕作地域」を動物の予測地域に加えてください。ホトケドジョウは、環境変化に弱い要因があると考えられることから、その影響要因を踏まえて予測評価してください。
また、大径木を保全するとしていることから、大径木が存在する「樹林が点在する広大な草地域」を植物の予測地域に加えてください。
- (イ) 土地区画整理事業が整備する保全対象種の生息・生育環境については、保全対象種の移設・移植の状況に不確定要素があることから、土地区画整理事業の事後調査を踏まえた上で博覧会として必要な情報を補完するため、事後調査項目として動物と植物を選定し、工事中、開催中、撤去中に事後調査を適切に実施してください。

(2) 開催中

ア 温室効果ガス

電力は再生可能エネルギーの100%活用を目指し、省エネルギー型製品の導入等により温室効果ガスの削減に努力するとしていますが、エネルギー源として都市ガスやプロパンガスの使用も想定していることから、カーボンニュートラルを目指した積極的な環境の保全のための措置を評価書に記載してください。

イ 水循環

対象事業実施区域の堀谷戸川流域において会場施設等の存在に伴う雨水流出量の

変化量が少なくないことから、堀谷戸川の予測地点より上流域全体における変化量についても算出し、影響の程度を評価書に記載してください。

ウ 廃棄物・建設発生土

(ア) 廃棄物を可能な限り削減するとしていることから、植物残さの堆肥化などリサイクルの推進やリユース食器の利用推進、食品ロスの削減、ごみ分別の徹底等について具体的な取組を検討し、評価書に記載してください。

(イ) 過去の博覧会等の原単位から廃棄物の発生量を予測し、それに対し可能な限り廃棄物を削減するとしていることから、博覧会開催中の一般廃棄物と産業廃棄物の発生量、再資源化量、処分量について公表してください。また、資源循環の観点から、リサイクルした堆肥を博覧会でどの程度活用したかについても公表してください。

公表に当たっては、統計を取って種類ごとや来場者1人当たりの量を示すなど、今後の博覧会に生かせるように努めてください。

エ 騒音

関係車両の走行に伴う騒音レベルについて、現況では環境基準を満たしていますが、予測で環境基準を上回る地点があります。その要因を考察し、評価書に記載してください。

オ 地域社会

(ア) 将来一般交通量を転換率式併用QV分割配分手法で推計していますが、分割回数やその比率等によって予測が変わることから、予測条件を評価書に記載してください。

(イ) 輸送計画では多客日において徒歩等により約6,000人の来場者を想定していることから、その来場経路や人数割合を示した上で、交差点を横断する来場者を考慮して交通混雑を予測評価してください。

(ウ) 交差点需要率が限界需要率を上回り、車線の交通容量比が1.0を上回る交差点においては、一般交通流への影響はないとしていますが、関係車両の滞留への対策を検討し、評価書に記載してください。

(エ) 無信号交差点において、バスターミナルからのシャトルバスが環状4号線に左折するに当たり、大型車は小型車に比べて時間を要することから、実測した結果を踏まえて予測評価してください。

(オ) 会場周辺4駅からのシャトルバスについて、各駅におけるバス乗り場や滞留場所、滞留人数を具体的に示した上で、駅からの流入が変動することを踏まえて来場者の滞留による駅利用者への影響を予測評価してください。

(カ) パークアンドライド駐車場の場所が全ては示されていないことから、候補地選定の考え方を評価書に記載してください。

また、具体的な候補地が決まり次第、既存の駐車場を活用する場合を除き、周辺道路の交通状況を予測評価し、あらかじめ周辺住民等へ周知するとともに公表してください。併せて、候補地の周辺状況を踏まえ必要に応じて大気質、騒音、振動等についても同様に行ってください。

カ 景観

- (ア) 囲繞景観では背景に自然環境があることも景観に含まれることから、対象事業実施区域内の囲繞景観の予測地点において360度撮影をしている場合は、その地点の環境を反映するために全方向を対象に予測評価してください。
- (イ) 囲繞景観における価値認識について、普遍価値の利用性は利用のアクセス性、固有価値は人と環境との調和の観点からの評価とするとともに、具体的な評価の考え方を評価書に記載してください。価値の変化はその考え方を基に、景観の変容も踏まえて予測評価してください。